

# 軍用食（NATO 軍、米軍）の味比べ

## マスコミ報道と異なるイラクの親切

岩本友則

イラクは、食事の出来るレストランが郊外に行けばほとんどありません。このため、BMVC（バグダッド監視検認センター）の事務所には、長期保存が出来、いつでも食べることが出来る軍用食が用意されていました。これは、MRE（Meal Ready to Eat の略）と呼ばれ、NATO 軍の軍用食と米軍の軍用食が、4ドルと5ドルでそれぞれ買うことが出来ました。

私たちの生活において食べることをしない軍用食について、また、日本におけるマスコミ報道と全く異なるイラク政府の親切な行為についても紹介したいと思います。

### 1. マスコミ報道と異なりイラクの人は親切

国連の査察活動に対するイラクの妨害行為が新聞やテレビ等において報道されていました。しかし、自分が実際にイラクに行ってイラク政府の方達と接して見ると日本のマスコミで報道されている事とは全く異なり査察の妨げとなる行為など無くとても協力的でした。ただし、米国籍のスタッフが加わっていると話は別です。この点については、次号で説明しましょう。

私は、多くの親切を受けた内の一つですが、イラク北部第一の都市（バグダッドから北へ約400km）である「モスル」の近くにあるハットラ神殿です。査察の帰り、イラク政府の査察随行者が親切に観光案内してくれたのです。

ハットラ神殿（写真）は、紀元前2世紀頃の遺跡であり、かなり風化が進んでいますが、とても雄大な遺跡で、当時の反映が伺われるものです。

また、モスルの東側には、イラクには珍しい山岳地帯があり、その奥は、クルド人地区で私達は、行くことの出来ない地域でした。随行者は、この山岳地帯にある初期（紀元2世紀ころ）の教会を、私たちに案内してくれました。

教会は、山の切り立った中腹にあり、その廻りには、自然の洞窟が幾つもあって祈りの場所として何世紀にも渡って使われてきたのだそうです。何故切り立った山の中腹に建てられたかと言うと、それはキリスト教に対する



するローマの迫害を、逃れるためだったそうです。

教会の中に入ると、修道院としても使われており、教会にまでフセイン大統領の大きな写真が、飾られているのです。そして、会堂の講壇奥には、部屋があり鎖のついた首輪があるのです。その首輪について、案内してくれた教会の長老風の老人は、得意そうに説明するのです。首輪につながれ、一晩祈ると病が癒され、不妊の女性は身ごもると言うのです。

## 2. 狩猟民族と農耕民族

色々な国の人と一緒に働いていて感じることは、民族、遺伝子の違いです。農耕民族は、3度の食事をするのがあたりまえですが、狩猟民族は、獲物を何時も捕られることが出来るとは限りません。ですから、食べられる時に沢山食べて食いだめが出来、食べなくても平気です。

この民族の遺伝子の差は、イラクでの査察活動にも現れます。例えば、バグダッドの事務所から遠くの施設に査察に行きます。そして、査察は午後2時頃までかかり、それから車で帰ってくれば、午後4時、5時です。これから食事です。

農耕民族の遺伝子を持つ私は、午後2時を過ぎての査察や車の運転は、エネルギー切れで、もうダメでした。しかし、狩猟民族の遺伝子を受け継ぐ査察官は、昼食を食べなくても平気で、食事を取らなくても平気で何時間も高速道路を運転して事務所に帰ってきます。

この様な経験から、以後、遠くの施設に査察に行く場合、日本から持参したカロリーメイトを、持って行くことにしたのです。

## 3. 軍用食の味比べ

NATO 軍の軍用食と米軍の軍用食 (MRE) を、私も買って利用してみました。内容は、双方に共通で入っている物は、チョコレート、コーヒー、クラッカーです。メインディッシュは、レトルトパックの豆などの煮た物、野菜スープなどもあります。これらは、そのまま食べることも出来ませんが、暖めて食べると味が良くなります。また、子供の頃よく飲んだ粉ジュースなども入っており、水に溶かして飲むことが出来き、子供の頃を思い出し、とても懐かしく感じました。

私は、それぞれ2度これらの軍用食を、試しました。これらの軍用食を総括しますと、あまり美味しくありません。従って、軍用食に頼ることは止め、日本から持って行ったカロリーメイトと南部煎餅の方が、美味しくとても重宝したのです。

日本の自衛隊の MRE 試してみたいものです。

続く